

相模人形芝居

下中座 だより

令和五年 中秋号
第四巻

人形の横顔

「坂田金時 怪童丸物語」こぼれ話と
あらすじ

公演リポート／傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段
横浜関内ホール公演、神奈川サンシティ公演
座員のご紹介／数珠つなぎ

下中座のご紹介

催し物のお知らせ／民俗芸能大会のご案内
小竹の歳時記
座員募集のお知らせ 編集後記

表紙写真

神奈川県小田原市の新たな芸術文化創造活動拠点として、2年前にオープンした小田原三の丸ホール。大ホール、小ホール、ギャラリーの他、オープンスペースもあり、市民が交流の場として利用している。小田原城の目の前という立地も魅力。

人形の顔 の横顔

坂田金時 怪童丸物語
足柄山の段より

怪童丸の巻



怪童丸のカシラ

カシラ分類：鬼若(おにわか)
塗り：白

機構：機構：立眉、寄り眼、横目左右

うなぎぎ：小猿式

髪型：稚児髷

衣装：緑色縮緬金銀箔半腰

紫ぼかし練精好指貫袴

文・林美禰子 座長

解説

藤田和嘉子 作

鶴澤津賀寿 作曲

下中座 振付・演出

太夫：竹本土佐子

三味線：鶴澤津賀寿

ツレ：鶴澤津賀栄

(録音による上演)

あらすじ

足柄山に怪力無双の子がいると聞き、源頼光の家臣、碓井貞光が探しにやってきました。奥深い山中で、体格の良い子が山の動物たちと相撲を取っている。大きな熊も軽々と投げ飛ばす姿に目を見張った貞光は、岩陰から飛び出してその子と相撲を取る。力自慢の貞光と対等の勝負をする子に、貞光は驚いた。

「この子が噂の怪童丸」と気づいた貞光は、都に出て頼光の家臣になるよう勧める。が、幼い怪童丸は相手にしない。怒った貞光が帰ろうとしたところへ頼光の家臣坂田時行の妻、八重桐が現れる。驚く貞光に、今は山姥になった八重桐は亡き夫の望み通り、怪童丸を頼光の家臣にしてほしいと頼む。

怪童丸は別れを嫌がるが、山姥はよくよく言い聞かせ、貞光とともに怪童丸を説得する。ついに怪童丸も母の望みを受け入れ、貞光とともに都へ上ることとなった。

怪童丸物語 こぼれ話

『怪童丸物語』 三部作の 誕生秘話

下中座では、下中座を知ってもらおう活動として、地域の小学校・中学校へ出向き、様々な普及活動を行ってきました。

その活動を通して、単発の体験ではなく、部活動のような継続事業の必要性を強く感じました。そこで、地元の小田原市立橋中学校での相模人形芝居の部活動創設を目指したのです。

生徒たちが部活動として日常的に関わるには、身近な主人公が大活躍する、楽しくわかりやすい新作が必要と考えました。相模人形芝居の伝統継承と普及が最大の目的ですから、伝統の形を崩さずに、義太夫節と太榎三味線の基本を守ります。そして、「足柄山の金太郎」を主人公とし、舞台も近隣の足柄山にしました。中学生が演じて楽しく、その弟妹たちが観て楽しい人形浄瑠璃をめざし、熊や狸などの動物たちもたくさん登場させました。

平成14年に同好会として「相模人形クラブ」を発足させ、平成15年の橋中学校学習発表会で『坂田金時 怪童丸物語 足柄山の段』の初演にこぎつけました。以来、毎年橋中学校学習発表会や小田原民俗芸能保存協会後継者育成発表会で

上演するなど再演を重ねています。

平成21年には、昭和55年から活動を続けている神奈川県立二宮高校相模人形部のために第2部の青春篇『下鴨神社の段』が作られ、さらに平成25年には下中座のための完結編『金時誕生の段』が作られ、『坂田金時 怪童丸物語』三部作の完成を見ました。

三部作の演者の流れが、中学校↓高校↓下中座と続く後継者育成の流れにそのまま重なっています。



文・林美禰子 座長

公演リポート

第4巻

六月十九日
関内ホール公演
傾城阿波の鳴門〜
巡礼歌の段

太極拳協会神奈川県支部という団体から公演依頼があり、横浜の関内ホールで公演をしました。演目は「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」です。

この日は太極拳の総会があり、その中のアトラクションでの参加でした。本番では、少しトラブルがありましたが無事に終えることができました！「感動しました」「素晴らしかったです」と言ってくれ、とても嬉しかったです。

今年度から公演回数も増えてきて、お客様の感想を耳にし、喜んでくださる笑顔を目にできる機会も増えてきました。もつといろいろな人に喜んでもらえるよう、これからもまだまだ頑張ります！

機会があればぜひ観に来て下さいね!!
文・金窓恵



写真：中島幹夫



写真：中島幹夫



写真：中島幹夫



写真：鈴木忠夫



写真：鈴木忠夫

七月二日
サンシティ神奈川公演
傾城阿波の鳴門〜
巡礼歌の段

お馴染みの『傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段』をサンシティ神奈川で上演しました。

サンシティ神奈川とは会員制の有料老人ホームです。秦野での公演は久しぶりで、

フロアの二画を借り、幕も背景幕もありませんでした。演者の皆さんはいつも以上気合い十分なぐらいで、施設に入居されている150人ほどの方々が見に来てくれました。

上演後はふれあいタイムで写真を撮ったり、人形に触れたりしてお客様を楽しませるのも下中座ならではの楽しみですね！

下中座の公演には活気と熱量があり、暑さに負けずに更なるパワーアップに努めたいと思います。

文・金窓裕太郎



座員

数珠つなぎ

座員紹介



守實利之さんが紹介する人は



松本日菜子さん

◀ 物静か、でも一旦人形を持つと人形に息吹を吹き込むパワーが全開。

◀ NHKの番組「君の声を聴きたい」でインタビューを受ける日菜子さん

松本日菜子さんは、現在、大学2年生。下中小学校、橋中学校、二宮高等学校、そして昭和女子大学と、小さい頃から現在に至るまで人形浄瑠璃に親しまれ、平成29年5月に下中座に入門されました。私と入門同期ではありませんが、人形遣い歴は今年10年目で、私の4年先輩にあたり、日々、厳しい御指導を頂いております。

人形遣いをやり始めたきっかけは、小学校のクラブ活動の紹介の時、たまたま通りかかり「梨割り」という人形を、体験したのがきっかけのこと。

また、どんな所に人形を操る魅力を感じるかお伺いしたところ、観客の視点とはまた違った形で、人形の遣い手の視線で舞台を見ることが出来る点が楽しいとのこと。遣い手により演じ方が微妙に違っていたり、舞台でのアドリブもあり、全く同じ舞台はないところが魅力なのだそう。

今まで演じた役で印象に残っているものは、下中座での初めての役である伽羅先代萩の「政岡」や、小学生の初舞台のときの「二人禿」だそうです。今後、遣ってみたい人形は、男役の足はあまりやっつけないので、是非経験して芸の幅を広げたいと意欲的に語っておられました。

既にNHKへの出演も2回経験されており、貫禄十分な先輩ですが、今後は、CSの番組にも進出したいとの野望をお持ちのようで、誠に頼もしい限りです。これで下中座の未来も安泰だ！



相模人形芝居下中座について

小田原市小竹地区に江戸時代から小竹の芝居として親しまれてきた、三人遣いの人形芝居の一座です。国の重要無形民俗文化財に指定されています。

現在の座員は各地から集まり、年齢層は十代から九十代と幅広く、男女もほぼ半々。学校や職種もさまざまな集団で、練習はまじめに集中する一方、ミーティングは和気あいあいとしていて、めりはりのある魅力的な集まりです。

稽古は、原則として月二回土曜日、夏は涼しいこゆるぎセンターで、それ以外は小竹公民館で行っています。

自慢は美しい人形たち。古典の継承を大切にし、加えて新作の上演も積極的に行っています。また、後継者育成にも力を



入れ、地元の小、中、高校のクラブで指導し、そこから座員になっている人も少なくありません。小学校などへの体験学習にも出かけています。一つの芝居をみんなで作る上げる楽しさを味わいながら、皆さんにより素敵な芝居をお届けできるように、これからも励んでいきます。



文・早野里美

小竹の歳時記

秋の田畑



文・岸敏江

小竹公民館の北側にある「六反田(ろくたんだ)」。中村川沿いに水田が広がる耕地は、十月中旬、一斉に稲刈りが行われます。たわわに実った稲穂を、稲刈り機や稲刈り鎌で刈り取ります。そして、乾燥させるための「はさがけ」が並びます。1年間の自家用の米を作っている小規模農家ならではの風景です。穂を下にして天日で干した新米の味は格別です。

山あいの小竹地区は、今でも農家(兼業農家も含めて)が多くあります。11月になると、特産の「下中たまねぎ」の植え付けが始まります。9月に苗場に種まきし、天候や病気などに気を配りながら苗を育てます。小竹は、下中地区の中でもタマネギの作付面積が広く、11月上旬には、植え付け用の黒マルチがあちこちの畑に敷かれます。

お知らせ

小田原民俗芸能保存協会
創立50周年記念

民俗芸能大会

(令和5年度後継者育成発表会)

日時：令和5年11月12日(日)

△開場V11時30分

△開演V12時00分

会場：小田原三の丸ホール

大ホール

(小田原市本町1-7-50)

出演：

小田原市山王原大漁木遣唄保存会

栢山田植歌保存会

小田原祭囃子連絡協議会

(小田原囃子宮之前保存会)

早川おはやし会

根府川寺山神社鹿島踊保存会

曾我別所寿獅子舞保存会

小田原囃子多古保存会

小田原ちようちん踊保存会

相模人形芝居下中座

川崎沖縄芸能研究会(特別出演)

入場料：無料

お問い合わせ：

TEL 0465-33-1717

(小田原市文化財課)

TEL 0465-44-4573

(小田原民俗芸能保存協会 林)



相模人形芝居 下中座だより

令和5年 中秋号(通算第4号)
令和5年10月1日発行

発行・編集人：林 美穂子(下中座 座長)
連絡先：0465-44-4573
ホームページ <http://www.shimonaka-za.jp>
メールアドレス newsletter@shimonaka-za.jp
デザイン：上條 祐嗣

新型コロナウイルスが5類に移行し、多くの行事が復活する中、下中座も公演依頼が続いています。人形浄瑠璃という伝統芸能を気に留めてくださる人が多いのは有り難いことで、それを励みに、これからも頑張っていきたいと思うこの頃です。(ジ)

日菓子先輩を紹介した座員数珠つなぎはいかがでしたか？我ながら力作だと自画自賛しているところ。下中座は、日菓子先輩を初め若い座員も多く活動も活発です。座員は随時募集しますのでお気軽にご連絡下さい。(M)

本番中の舞台上でのトラブルは案外お客様は気づきませんが、見えないところでは後見達がバタバタしています(笑)。人形は勿論ですが後見も思っているよりも結構大変で、とても大事な役割なんですよ。(K)

口上を務める機会に恵まれました。演目によっては言い回しが難しく、息遣い大変です。お師匠さんの前で緊張しますが、厳しい指導でスグ助かっています。今回の演目は長く噛まない様にしっかり務めたいと思います。(Y)

太極拳小田原支部の永井先生、青木先生、辻村先生はじめ皆様には、大変お世話になっております。神奈川県支部総会のアトラクションはコロナによる延期が続き、今回やっと実現しました。本当にうれい公演でした。(H)

編・集・後・記